

2016年度第2回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 牛若丸ジャンプステークス

牛若丸（うしわかまる）は、源平合戦で大活躍した源氏の武将、源義経の幼名。義経は、壇ノ浦の戦いで、敵将平教経と遭遇した際に、舟と舟との間を飛び移ったとされ、その距離が舟八艘分もあったことから「八艘飛び」の名で今日にも伝わっている。

○ 梅花賞

梅花（ばいか）は、梅の花のこと。梅はバラ科の落葉小高木。花は2～3月頃に開花し、強い香りを放つ。花卉の基本数は5枚であるが、さらに多いものや八重咲きのものもある。果実は球体で、6月頃に黄色く熟し、果肉は強い酸味を持つ。花言葉は「高潔」「忠実」。

○ 稲荷特別

稲荷（いなり）は、京都市伏見区東山連峰の南端、深草山の北にある山。西麓には、秦伊呂具（はたのいろぐ）が鎮守神として創建したとされる伏見稲荷大社があり、山麓から山頂まで千本鳥居が続いている。同大社は、全国の稲荷神社の総本社として信仰を集めている。

○ 北山ステークス

北山（きたやま）は、京都北方の船岡山・衣笠山・岩倉山などの諸山の総称。丹波高地の南端部を指す。また、京都市北部の通りの名。室町幕府の3代将軍足利義満が山荘を営んだ京都北山にちなんで、当時の文化を北山文化と呼ぶ。

<第2日>

○ 大津特別

大津（おおつ）は、滋賀県南西部、琵琶湖南西岸の市。滋賀県の県庁所在地。古くから湖上、陸上交通の要所として栄え、都が置かれたこともあった。市内には延暦寺・日吉大社・石山寺など由緒ある寺社のほか、大津京跡・膳所城跡・義仲寺などの史跡も多い。

○ 松籟ステークス

松籟（しょうらい）は、松の梢に吹く風の音のこと。松風、松韻ともいう。松は、古くから神の宿り、節操や長寿を象徴する神聖な木として尊ばれている。

○ シルクロードステークス（GⅢ）

本競走は、平成8年に創設された重賞競走。12年に高松宮記念が3月に移設されたことに伴い、本競走の施行時期も従来の4月から現在の時期に変更となった。また、14年より負担重量が別定からハンデキャップへ変更されている。

シルクロード（Silk Road）は、中央アジアを横断する古代の東西交通路の名称。名は、絹が中国からこの道を通って西方に運ばれたことに由来する。奈良の正倉院には、シルクロードを通じて伝わったとされる中国製やペルシア製の宝物が数多く現存している。

<第3日>

○ 木津川特別

木津川（きづがわ）は、京都府南部を流れ、八幡市で淀川に注ぐ一級河川。三重県の青山高原に源を発し、柘植川、服部川、名張川の三河川の水を集める。

○ エルフィンステークス

エルフィン（Elfin）は、「小さい妖精のような」を意味する英語。チュートン民話において、魔力をもった妖精は、森や野に住み、いたずら好きだとされている。

○ アルデバランステークス

アルデバラン（Aldebaran）は、おうし座の一等星。アラビア語で「後続くもの」を意味する「アル・ダバラン」に由来する。カペラ・ポルックス・プロキオン・シリウス・リゲルと共に「冬のダイヤモンド」を構成している。

<第4日>

○ 河原町ステークス

河原町（かわらまち）は、京都市中央部を流れる鴨川西岸沿いに発展している通りとその周辺地域。安土桃山時代に豊臣秀吉が築いた御土居（古い京都を囲んだ堀）の外にある。河原町三条から四条河原町にかけては繁華街となっている。

○ 山城ステークス

山城（やましる）は、五畿の国の1つで、京都府南部にあたる旧国名。古くは「山代」と書いたが、山河が襟帯しており、城をなす形をしていることから、延暦13年（794）の平安京遷都時に改字されたといわれている。

○ きさらぎ賞（NHK賞）（GⅢ）

本競走は、昭和36年に創設された3歳馬の重賞競走。当初は中京競馬場で施行されており、中京記念に次ぐ歴史を誇るレースであった。62年から施行場が京都競馬場に変更され、距離も1800mから2000mへ延伸された。その後、1800mコースの新設により平成3年から再び1800mに短縮され、現在に至っている。

きさらぎ（如月）は、陰暦で2月の異称。

NHKは、東京都渋谷区に本部を置く日本放送協会の略称。本競走は、同協会より寄贈賞を受けて施行されている。

<第5日>

○ 琵琶湖特別

琵琶湖（びわこ）は、滋賀県の中央部を占める日本最大の湖。古くは淡海・近江海・嶋（にお）の海などとも呼ばれていた。名は、形状が楽器の琵琶に似ていることに由来するといわれている。

○ 飛鳥ステークス

飛鳥（あすか）は、奈良県高市郡明日香村一帯の地域。6世紀末から7世紀にかけて、この地に天皇の宮が多く所在した。この間の時代を飛鳥時代と呼び、当時を偲ぶ飛鳥寺や高松塚古墳などの史跡がある。

○ 洛陽ステークス

洛陽（らくよう）は、平安京の左京の称。右京を長安と称するのに対する。また、京都の異称。名は、後漢など中国の王朝の首都であった洛陽に由来する。

<第6日>

○ こぶし賞

こぶしは、モクレン科の落葉高木。名は、つぼみが握りこぶしに似ていること、また、果実に握りこぶし状の凹凸があることから付けられた。花言葉は「友愛」「歓迎」。

○ すばるステークス

すばるは、牡牛座にある散開星団、プレアデス星団の和名。数多くの星によって構成されているが、肉眼で確認できる星は6個程度であることから、「六連星（むつらほし）」とも呼ばれる。

○ 農林水産省賞典京都記念（GⅡ）

本競走は、昭和17年に創設された重賞競走。25年までは3000m～3500m、27年以降は2000m～2200mで施行されていたが、44年の第47回から2400mに変更された。また、毎年春・秋の年2回施行されていたが、59年より年1回の施行となり、平成6年には距離が2200m、負担重量がハンデキャップから別定へと変更された。

<第7日>

○ 春日特別

春日（かすが）は、奈良市およびその周辺地域。特に、春日大社の付近を指す。春日大社は、奈良市春日野町にある神社。3月13日の春日祭は三勅祭の1つ。平成10年に「古都奈良の文化財」の1つとして世界遺産に登録された。

○ 橿原ステークス

橿原（かしはら）は、奈良県中西部の市。中世には、市の中心部が寺内町として発展した。神武天皇の皇居は、畝傍（うねび）橿原宮と呼ばれ、現在の橿原神宮は、その皇居跡と推定される地に建てられた。

○ 京都牝馬ステークス（GⅢ）

本競走は、3歳以上の牝馬限定競走として昭和41年に創設された重賞競走。42年までは2000mで施行され、43年からは54、59年を除き、1600mで施行されてきたが、本年より1400mに短縮され施行される。また、平成13年に『京都牝馬特別』から『京都牝馬ステークス』へ改称され、現在に至っている。

<第8日>

○ つばき賞

つばきは、ツバキ科の常緑高木。関東以北では海岸地帯に点在し、ヤブツバキとも呼ばれる。日本では古代より植栽されており、観賞花として品種改良が行われた。花言葉は「完全な愛」「誇り」。

○ 乙訓特別

乙訓（おとくに）は、京都府南部の地名。かつては現在の長岡京市、向日市などを含む桂川の西岸地域を指した。『日本書紀』には、弟国（おとくに）とも記載されている。特産品としてタケノコが有名。

○ 斑鳩ステーキス

斑鳩（いかるが）は、奈良県北西部、生駒郡の町。名は、聖徳太子が造営した斑鳩宮跡に由来する。法隆寺・中宮寺・法輪寺などの社寺があり、仏教の中心地であった。町内西部の竜田川流域は県立竜田公園として整備され、紅葉の名所として知られている。